

Javaで帳票/レポートを簡単に

EspressReport®

Pure Javaだから簡単導入

EspressReportは、100%Javaエンジンなので、Javaが稼動するOSであればどこでも動作可能です。開発はWindowsで、運用はLinuxで、といったJavaエンジンならではの開発運用体系にも対応しています。

データベース、CSVなど各種データ取込み対応

EspressReportは、JDBC/ODBC対応データベースはもちろん、CSVやXMLなどのテキストファイル、さらにJavaのクラスファイルやEJB、Excel、Salesforce、SOAPからもデータソースとしてデータを取り込むことができます。



データベース



Webサービス



ファイル

JDBC
ODBC

EJB

SOAP

XML

CSV
テキスト

JINDI
データソース

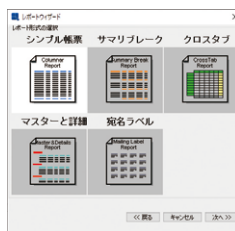
Salesforce

Excel
シート

Javaクラス

各種レポート/帳票形式に対応

5種類の基本形式からレポートを作成できます。各形式ごとにソースデータの列に対するマッピング設定が異なり、例えば、クロスタブ形式では、どの列を表で行/列とするのか、集約した値を追加するのかなどを設定します。このマッピングにより、レポートの基本的な構造を設計、レポートデザイナー等で詳細な作りこみを行いテンプレートとして使用する開発方式が一般的です。



従業員名	Q1	Q2	Q3	Q4
田中 大輔	0	\$0.00	45	\$63,300.00
田中 大輔	28	\$43,700.00	70	\$125,163.00
田中 大輔	74	\$62,846.00	74	\$82,400.00
田中 大輔	45	\$46,739.00	0	\$0.00
田中 大輔	147	\$153,285.0	189	\$270,871.0
田中 大輔	272	\$307,903.0	210	\$221,723.0

豊富なエクスポートオプション、スケジュール配信機能

Webやアプリケーションのコンテンツと簡単に統合できるよう、レポートはHTML、DHTMLスタイルシートレイアウト、印刷品質のPDF、Microsoft Excel、リッチテキストなど多くの形式でエクスポートできます。また、組み込みのスケジュール機能でテンプレートから生成したレポートをファイルへ保存、電子メール送付といった操作を定期ジョブとして登録、自動配信するように設定できます。

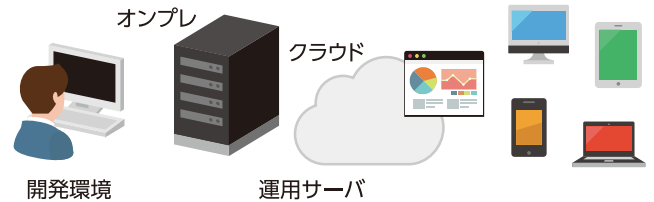
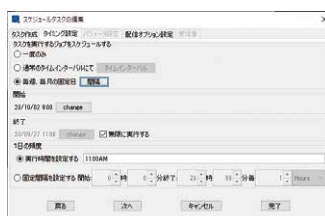


HTML/DHTML

リッチテキスト

PDF

Excel



Javaから動的にレポート/グラフを制御、APIのみでの帳票作成も対応

わずか数行のコードで、開発者はアプリケーション、アプレット、サーブレット、JSPにレポートを簡単に統合できます。Java APIを使用して、コードのみでレポートを作成することも、デザイナーで作成したテンプレートを適用してレポートを作成することもできます。レポートはプログラムでカスタマイズでき、APIからあらゆるレポート要素にアクセスし、動的に変更できます。また、スケジューラへのAPIフックも提供されており、プログラマ的にジョブを制御することも可能です。

サンプル Report API コード:

```
import java.awt.*;
import java.applet.*;
import java.io.*;
import java.util.*;
import javax.servlet.*;
import javax.servlet.http.*;
import quadbase.reportdesigner.ReportAPI.*;
import quadbase.reportdesigner.ReportElements.*;
import quadbase.reportdesigner.ReportViewer.*;
import quadbase.reportdesigner.util.*;
import quadbase.reportdesigner.lang.*;
```

```
public class SampleServlet extends HttpServlet implements
SingleThreadModel {
```

```
public void doGet (HttpServletRequest req,
HttpServletResponse res) throws
ServletException, IOException {
```

```
// レスポンスのContent-Typeヘッダーを設定
res.setContentType ("text/html");
```

```
// コンテンツをクライアントに返すための
// レスポンスのOutputStreamを取得
```

```
OutputStream toClient = res.getOutputStream ();
try {
```

```
// 指定したテンプレートからレポートを生成
QbReport report = new QbReport ((Applet) null,
"templates/SampleReport.rpt");
```

```
// DHTMLへエクスポート(ストリーム)
report.export (QbReport.DHTML, toClient);
```

```
} catch (Exception e) {
e.printStackTrace ();
}
```

```
// OutputStreamをflush
toClient.flush ();
```

```
// ライターをクローズしレスポンスを完了
toClient.close ();
}
```

```
public String getServletInfo () {
```

```
return "SampleServlet servlet for EspressReport";
}
```

複雑なレポートもGUIで簡単設計：レポートデザイナー/日本語化対応

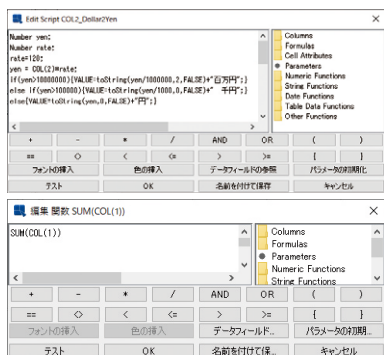
レポートや帳票の設計をコードのみで実施すると手間がかかります。EspressReportには日本語化されたレポートデザイナーがセットになっており、ここから詳細なデザインや設計が可能です。またデザイナーが提供している以下のような機能はAPIからも同様の設定が可能です。

セキュリティコントロール

レポート内の各要素に対してセキュリティレベルを設定できます。例えば、特定要素をマスキングしたものに置換、金額の項目を日本円に変換など、一部の要素のみが異なるレポートを毎回作り直さなくとも、一つのレポートで複数のビューに対応できます。

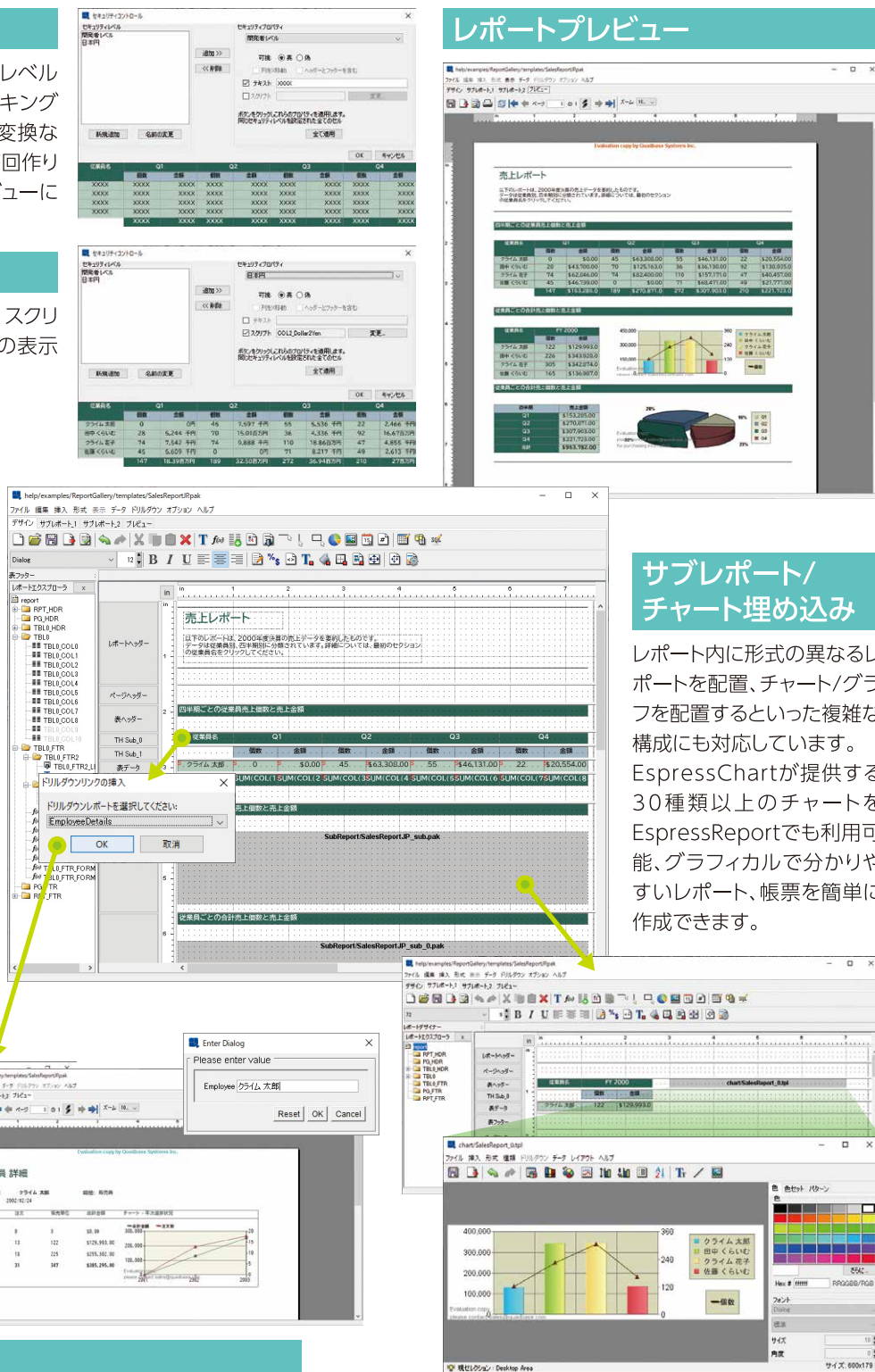
関数/スクリプト

レポート内の各要素に対する関数の適用、スクリプトにより条件に基づき、フォントや色等の表示形式の変更、値の置換もできます。



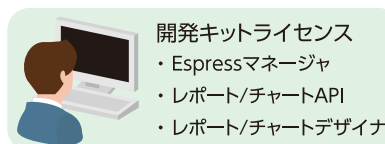
ハイパーリンク/ ドリルダウンリンク

URLへのリンクや、別レポートへのドリルダウンリンクを設定可能です。リンク先のレポートやチャートが、データベースをソースとしている場合、それを読み込むためのSQLクエリの一部をパラメータ化、リンクに設定した項目の値をパラメータ値としてドリルダウンさせることもできます。



ライセンス体系

レポートの設計やデザインを行う開発端末数単位の開発キットライセンスと、レポートを生成、公開するサーバ台数単位のサーバライセンスがあります。



開発キットライセンス

- Espressマネージャ
- レポート/チャートAPI
- レポート/チャートデザイナー



サーバライセンス

- Espressマネージャ
 - レポート/チャートAPI
- ※1CPUソケットまで

最小購入単位は1開発キットライセンス+1サーバライセンス（基本パック）となっており、それぞれ必要数をご購入いただく必要があります。

例えば、2端末で開発（グラフ、帳票のデザイン）、公開用のWebサーバが4台の場合、開発キットライセンスが2、サーバライセンスが4、必要です。